

3月定例会

3月定例会は2月24日から3月18日までの23日間の会期で開催しました。市長から提案された議案は、総額389億8100万円の令和3年度一般会計当初予算案や条例改正案など31件で、いずれも原案どおり可決されました。予算は、予算審査特別委員会を設置し、分科会（各常任委員会）ごとに集中的に審査しました。

（委員会審査6～7ページ／賛否表14～15ページ）

予算の主な事業

子ども達の未来を築く

子どもの居場所づくり活動基盤整備事業

700万円

子どもの貧困対策に加えて、幅広い担い手による地域の子どもの居場所づくりを行うため、子どもたちと「支援」を結びつけるコーディネートや子ども食堂などの活動団体の支援、連携を行います。



ブックセカンド事業

81万円

0歳児に絵本を贈るブックスタートに加えて、3歳児健診時に2度目の絵本を贈り、豊かな心を育みます。

感染症の予防

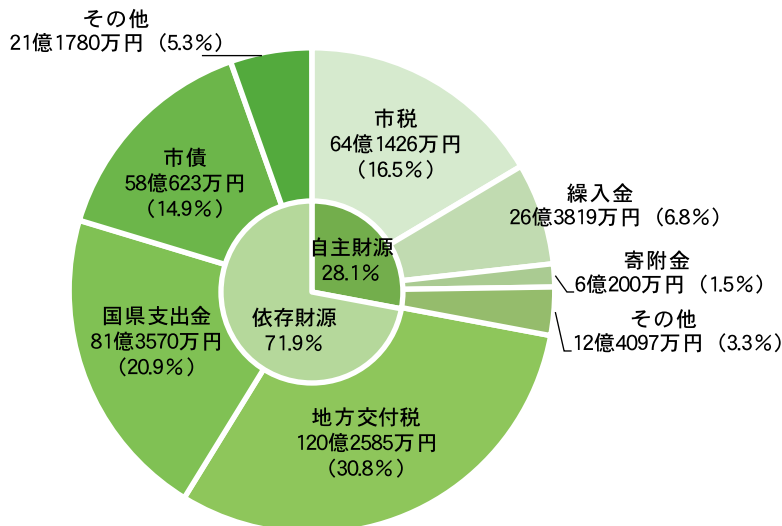
新型コロナウイルス感染症対策をはじめとする感染症の予防や発生時における検査助成など感染症拡大防止に取り組みます。



安心と成長のまちへ

令和3年度一般会計予算

389億8100万円



一般会計歳入の内訳

▼令和3年度各会計の当初予算

区分	予算額
一般会計	389億8100万円
特別会計	
国民健康保険事業費	88億1451万円
介護保険事業費	77億6884万円
後期高齢者医療	11億5212万円
矢部診療所	6702万円
串毛財産区	61万円
木屋財産区	638万円
企業会計	
水道事業	25億7503万円
下水道事業	18億8213万円
総計	612億4764万円

令和3年度予算が成立 当初

成長し活力あるまちへ

結婚新生活支援事業

1500万円

夫婦共に婚姻日における年齢が39歳以下で、かつ夫婦の合計所得が400万円未満の新婚世帯に対して、住居費や引っ越し費用の一部を補助し、経済的な支援を行います。



雇用・就労促進事業

50万円

地元企業とU・I・Jターン希望者や地元の多様な人材との就業マッチングのため、合同会社説明会を行います。

災害に備える

避難所給電用電気自動車

整備事業

1987万円

矢部・星野・黒木の避難所へ応急的な電力供給を図るため電気自動車等を整備します。



新庁舎建設は凍結

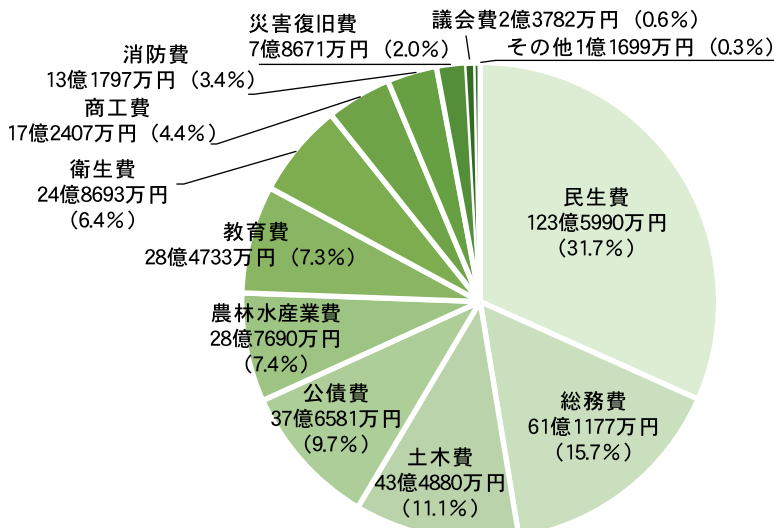
新庁舎建設費に活用する合併推進債の活用期限が延長されたため新庁舎建設工事費は凍結されました。発注時期（凍結解除）については、議会と改めて協議を行うよう求めています。

ふるさとの恵みと誇りを未来に

歳出予算用語解説

- 民生費：児童、高齢者、障がい者等のための福祉に要する費用等
- 総務費：全体的な管理事務、財政・会計管理事務に要する費用等
- 土木費：道路、河川、住宅、公園など公共施設の建設整備の費用
- 衛生費：ごみなど一般廃棄物の収集・処理など公衆衛生の費用等
- 公債費：借入金の返済や利子などの費用

※円グラフと表は四捨五入



一般会計歳出の内訳

令和3年度一般会計予算に対する討論

賛成16人 反対4人 原案可決

令和3年度一般会計予算は原案のとおり可決しました。議案の採決前に行われる討論で、議員5人が、賛成・反対の意見を述べ賛同を求めました。討論の要旨をお伝えします。

反対

べんがら村の改修費は、当初4億円程度と説明されていた。いつの間にか4倍の16億5千万円になっている。コロナ禍の中、市民の命と生活を守ることを最優先にした予算を考えるべきだ。

八女市の「特別障害者手当」受給者は、年間7人程度でありにも少ない。障がいの特性に応じた特別な配慮をした周知方法を講ずること。
また、職員が受給資格の可能性のある人と接する場合、同手当を分かりやすく説明し、申請を促すなど、適切に対応することを求める。
同関係予算が多額に計上されている。同和地区の特別扱いはただちに止めるべきだ。

森 茂生

賛成

本予算案は、新型コロナウィルス感染症対策、既存施策の継続・拡充や新規事業の創設などに腐心され、かつ国・県補助を活用した事業を選択するなど、健全財政を考慮した予算であることを認める。

新庁舎建設は、本体内工事費等を凍結するという市長判断があったが、防災拠点機能と市民の利便性を考慮すれば、安全・安心な庁舎の建設も早期に対応すべき課題と考える。
この予算を否決すれば、国保特別会計などの業務や消防・公立病院などの一部事務組合の業務にも支障をきたし、市民生活に大きな混乱を与えることが必至であるため、本案に賛成するものである。

田中 栄一

反対

3月18日付、西日本新聞朝刊の記事によれば、合併推進債については、令和6年度までに実施設計が終わっていけば使えるということである。

市長及び執行部が今まで説明してきた、令和6年度までに庁舎が完成していなければ合併推進債が使えないという根拠がなくなったことになる。
新庁舎建設費については、まずコロナで困っている市民のために使うべきであり、また凍結の期間についても、今後の情勢を踏まえ総合的に判断するというような曖昧なことではなく、コロナが終息し市民生活が正常に戻るまで待つべきであり、早急な凍結解除はすべきではないので令和3年度予算には反対である。

牛島 孝之

賛成

八女市第5次総合計画が令和3年度から施行されるが、「誰一人も置き去りにしない社会の構築」を目標とするSDGsの精神が貫かれた施策となっていると確信する。

コロナ禍による社会の変革の中で、血税をどのように使わせていただくかが重要になる中で、新庁舎建設の『凍結』という決断には敬意を表したい。市民の皆様の安心と安全な暮らし、甚大な災害への十分な備え、未来を担う子ども達へ負の遺産を残さない行政運営を期待したい。
山積する課題の中で、何が急がなければならない事業なのか。『生命を守る』という観点に立ち行政職員の方々の力を八女市全体の幸福の底上げに生かしていただきたい。

三角 真司

賛成

子どもの居場所づくり活動基盤整備事業、避難所給電用電気自動車整備事業をはじめ数々の新規事業は、当市が目指す将来像「ふるさとの恵みと誇りを未来につなぐ安心と成長のまち八女」の実現に向けて有効な予算であり、拡大事業とともに重点的に配分されていることを評価する。

加えて、市長が新庁舎建設の着手を一旦凍結したことは、賛同すると同時に市民感情からも適切な判断と考える。
市長には、当面のコロナ禍の中では、SDGsの理念である「誰ひとり取り残さない」ことを最重点課題として取り組み、一方でアフターコロナを見据えた夢や希望が持てる政策を打ち出すようお願いし、賛成討論とする。

高橋 信広

議案審議

限られた予算

有効に 適正に

令和2年度一般会計補正予算第11号

【概要】

令和2年度一般会計予算を17億8527万3千円減額するものです。主に事業の精算にともなう減額や国の補正予算の補助金等を活用した健康増進施設整備事業、農村地域防災減災事業を追加するほか、ふるさと支援寄附事業の増額が計上されました。

反対討論(要旨)

この補正予算に、繰越明許費として健康増進施設整備費事業10億2415万4千円が計上されている。
コロナ禍の中で、今はコロナ対策、市民の健康と暮らしを守ることに力を注ぐべきである。

松崎 辰義

※繰越明許費：年度内に支出が終わらない見込みのため、翌年度に限り繰り越して使用する経費。

令和3年度一般会計予算

べんがら村をリニューアル

健康増進施設整備事業

【概要】

八女市健康増進施設「べんがら村」を改修します。

問 リニューアル後にも2カ所の飲食提供スペースを設置するとしているが収益性はどうか。
答 レストランはバイキング方式からオーダー方式に変更し、新棟のカフェでは八女の農産物を使ったドリンクやスイーツを中心とした提供を考えている。休館中にメニュー



改修されるべんがら村

市のPRで地元特産品を送付

ふるさと絆便事業

【概要】

ふるさとへの誇りや絆を深め、将来においても継続的な関わりを持てるよう、進学や就職等で八女市を離れる若年層世代を対象に、本市のPR活動への協力を求め、その特典として特産品を送付します。

問 令和2年度に100人の会員登録を想定されているが、登録の方法は。
答 パソコンやスマートフォン、紙での申請を考えている。ただし、申請時には八女市外の住民票等が必要になる。

関連記事
6〜7ページ
委員会審査



人事案件

次の方を選任することに同意しました。

公平委員会委員

あきやま あきこ
秋山 朗子 氏

固定資産評価 審査委員会委員

あらお よしもり
荒尾 好守 氏

教育委員会委員

やまさき くみこ
山崎 久美子 氏

次の方を適任と認めました。

人権擁護委員

いのうえ みつひろ
井上 光洋 氏

しおつか みつり
塩塚 光徳 氏

しもがわ てつろう
下川 哲郎 氏

まついえ とくお
松家 徳雄 氏